

令和元（2019）年度 追手門学院大手前中・高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する人材育成をすべての教育活動の根本とする。

そのために

- ① 新教育を実行する教育集団を作る「チーム追手門学院大手前」
- ② 生徒の第一志望進路実現100%を目指し、進学校への変身
- ③ 募集の安定
- ④ 安心安全な学校の再構築
- ⑤ 働き方改革の推進

を掲げた。

2. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

(1) 自己評価アンケートの結果

○生徒

すべての項目で一定以上のポイントを獲得しており、特に「安全な学校生活」「アウトプット教育」「情報発信」「学校行事」などについては満足している。しかし、「問題を見逃さず丁寧な対応」「学習意欲を高める取り組み」に関しては評価が低く、殊に「新施設の利用」に関しては学年によって大きな隔たりがあった。

○保護者

入学を勧める保護者が70%となり前年度を大きく上回った。項目別では「安全な学校生活」「アウトプット教育」「情報発信」などの満足度が高く、逆に「学習意欲を高める取り組み」「学習習慣が身につく指導」に関しては満足度が低い。

○分析

昨年度に比べ、保護者への情報発信が進み高い評価を受けつつあることは評価できるが、生徒、保護者共に「学習」に関する評価が低い。新教育の中でいかに生徒の学習意欲を高めることができるか、そしてそれを進路実現に結び付けることができるかが課題である。

(2) 学校関係者評価委員会からの意見

- ・学校経営目標は学校の目指す方向がよくわかる。
- ・ICTには当然マイナスの面もあるがプラスの面を伸ばして行ってほしい。

- ・成功体験を増やす取り組みを進めてほしい。
- ・学習と生活は密接に関係している。
- ・生徒には厳しいことも言ってもらわないと伸びない。
- ・WIL 入試に注目したい。
- ・人気校になってきたことがわかる。
- ・いじめ対策には、外部の力を借りる方法もある。
- ・先生方が元気でないといけない。働き方改革をしっかりと進めてほしい。
- ・担任団の入れ替わりが激しいので避けてほしい。

3. 2019 年度の取り組み内容

- ① 新教育を実行する教育集団を作る「チーム追手門学院大手前」
 - ・ Global Science 教育の実践
 - ・ 探究活動の充実
 - ・ 英語教育、国際理解教育の改革
 - ・ 高大連携の再構築
 - ・ 追手門学院小学校との連携強化
 - ・ 教員の授業力向上
- ② 生徒の第一志望進路実現 100%を目指し、進学校への変身
 - ・ 3つの学び（個別型・協働型・プロジェクト型）＋リフレクションの徹底
 - ・ 保護者、生徒のマインドセット
 - ・ 国公立大＋医学部＝20名 早慶上智関関同立＝50名
 - ・ 中高一貫教育の強化
- ③ 募集の安定
 - ・ 志願者数 中学 105名 高校 235名の定員確保
 - ・ 保護者満足度の向上
 - ・ 広報活動の強化
- ④ 安心安全な学校の再構築
 - ・ リスクマネジメントの強化
 - ・ 教師の社会人力アップ
 - ・ 教師力の底上げ
- ⑤ 働き方改革の推進
 - ・ ICTの有効活用
 - ・ 業務スクラップの推進
 - ・ 教職員との対話を通じて問題点を明確にし、迅速に行動
 - ・ 働きやすい職場、笑顔の絶えない職場を作る

4. 2019年度の総括と課題

○2019年度の総括

今年度から“グローバルサイエンス”を本校の教育の方向性として掲げ「新生追手門学院大手前」として新たな一步を踏み出すこととなった。具体的には ICT 機器やリニューアルされた施設などを使った新教育を実践することにより、学校コンピテンシーでもある生徒たちにこれからの世界を生き抜く力“探究力”を育んでもらいたいと強く思っている。

その初年度となった2019年だが、多少の戸惑いはあったにせよ90%以上の先生方に新教育（授業改革）に取り組んでもらい、難関大学（国公立医学部医学科、難関私立大学）合格や AO 入試による国公立大学の合格など一定の成果を取めることはできた。しかし、国公立+医学部合格者数、難関私立大学合格者数、いずれも目標には及ばず、生徒の第一志望進路実現も54%にとどまった。

2020年度も新生追手門大手前第2章として生徒の第一志望進路実現100%を目指し、新教育の徹底および新コースの設立を具体化していきたい。

○2019年度の課題

（1）新教育の確立による唯一無二の進学校化

2019年度本校は新教育に大きく舵を切った。新教育（3つの学び+リフレクションによる授業改善）による学力向上を図り、生徒の第一志望進路実現100%を目指した結果今年度第一志望に進路実現できた生徒が54%、国公立+医学部医学科合格が17名（目標20名）難関私立大学合格が21名（目標50名）であった。

課題としては、残念ながらまだ知識活用力に差があり、難関私立大学合格（特に関関同立）に至らなかった生徒が多かったことである。

来年度からも新しく導入した ICT のさらなる活用による授業改善による、知識の習得+知識の活用に努め、生徒・保護者のマインドセットなどによって生徒の進路指導100%実現を推進していきたい。

（2）海外大学への進学を可能とする基盤整備の取り組み

来年度海外大学・専門学校へ進学する生徒も5名おり海外大学進学への基盤整備は徐々に進んでいるように思われる。2020年度は海外の教育機関（高校・大学）とのさらなるパートナーシップ構築、英語教育・国際理解教育の改革を推進し、生徒のグローバルマインドの醸成を目指す。

（3）安定的な志願者確保につながるブランド力の向上

中学校115名（定員105名）高等学校223名（定員235名）の新入生を確保することができた。高等学校で12名の定員を割ったのは評定による基準をなくしたことによる、併願者の戻りが少なかつたためだと思われる。

来年度もグローバルサイエンス教育の推進を前面に押し出し、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）承認を目指すことにより、ブランド力を向上させていきたい。

5. 2020年度の取り組み

- ① 生徒の第一志望進路実現100%を目指し、スーパー進学校への転身
 - ・国公立大学+医学部医学科合格者20名 難関私立大学合格者50名
 - ・生徒、保護者のマインドセット
 - ・教員のマインドセット

- ② 新教育を実行する教員集団「チーム追手門大手前」の完成
 - ・Global science 教育の実践と徹底
 - ・授業における「3つの学び+リフレクション」の徹底
 - ・探究活動の充実
 - ・GS(グローバルサイエンスコース)GA(グローバルアカデミーコース)の設立
 - ・海外研修の改革
 - ・SSH 認定に向けての取り組み

- ③ 志願者あふれる学校
 - ・新教育並びに GA/GS を柱とした広報活動の強化
 - ・成績上位の受験生の獲得

- ④ 安心安全な学校の再構築
 - ・教師の社会人力強化
 - ・担任力の向上
 - ・リスクマネジメント力の向上

- ⑤ 働き方改革の更なる推進
 - ・ICT 導入による校務の軽減
 - ・情報の共有化に向けての工夫
 - ・働きやすい笑顔の絶えない職場を作る
 - ・週休2日制に向けてのネクストステップ